

総務文教委員会

行政視察の報告

令和5年1月30日（月）～2月1日（水）

総務文教委員会

1、視察目的

浜田市における課題の解決の参考とするため、宮崎県内の自治体における特徴的な事業及び施設（住み続けられるまちづくりを目的として設立された財団、駅に隣接する賑わいの拠点としての交流施設、旧施設の老朽化に伴い新たに整備された博物館）について調査し、今後の取組に生かす。



2、視察先一覧

(1) 一般財団法人 こゆ地域づくり推進機構 (こゆ財団)

@宮崎県児湯郡新富町

(2) 一般財団法人 つの未来まちづくり推進機構 (つの未来財団)

@宮崎県児湯郡都農町

(3) 延岡市駅前複合施設エンクロス

@宮崎県延岡市

(4) 延岡城・内藤記念博物館

@宮崎県延岡市



3、視察報告

(1) 一般財団法人 こゆ地域づくり推進機構 (こゆ財団)

▶視察先の概要

- ・SDGs項目11「住み続けられるまちづくり」の達成を目的として、新富町が旧観光協会を法人化して設立した地域商社。
- ・「稼いでまちに再投資する」循環モデルが評価され、2018年に内閣官房まち・ひと・しごと創生本部より地方創生優良事業に選出。
- ・世界で一番チャレンジできるまちを掲げ、チャレンジを育むコミュニティ作りのために行政と連携しながら地域の人を繋げる。
- ・野菜や果物などの農産物を中心に地域の資源を開発・販売する特産品販売と、地域の課題をビジネスの課題で解決できる人材を育成する起業家育成の二つを循環させて強い地域経済を作ることがコンセプト。
- ・国からの補助金を活用して、特産品ライチのブランディング（一粒1,000円）や廃校となった分校を合宿施設として整備。

▶ポイント

- ・町外から人材を誘致。地域おこし協力隊へのサポートが充実。
- ・委託によって、平成27年度から30年度までの4年間でふるさと納税実績額を84倍に増加させた（令和3年度も約14.8億円）。
- ・行政とは異なる独立した組織（財団）によるスピード感のある事業推進が可能。
- ・前年度のふるさと納税実績額の8%で運営を委託。民間努力がはたらく。



* ローカルビジネスに特化したスクール (こゆ財団HP)



* プロジェクト一覧 (こゆ財団HP)

3、視察報告

(1) 一般財団法人 こゆ地域づくり推進機構 (こゆ財団)

求める人材像

地域課題をチャンスと捉え、 自立してチャレンジできる人材

こゆ財団では、数多ある地域課題をチャンスと捉え、ビジネスの手法で解決を図ることにチャレンジしたい人材に対して、この制度を活用したチャレンジの機会を提供しています。

地域おこし協力隊（新富町嘱託員）として採用した人材は、新富町役場とこゆ財団のサポートのもと、地域課題と自らのビジョンを掛け合わせた事業の創出に取り組みます。求める人材像は以下の通りです。

- こゆ財団のビジョンとミッションに共感し、新しい社会づくりに前向きに取り組める方
- 事業について自ら積極的に活動ができる方、企画/ディレクション能力がある方
- 住民と協力しながら、地域資源を活用し、新しい事業開発に繋げられる方
- インターネットを含む様々なメディアに対応した情報発信ができる方
- 最長3年間の活動期間中に自ら起業し、その後も継続する意志のある方

* 協力隊の採用における人材像の提示 (こゆ財団HP)

こゆ財団が選ばれる5つの理由

- ・ 超一流の講師陣と交流できる
- ・ 地方創生の現場を体験できる
- ・ こゆ財団の事業に参画できる
- ・ こゆ財団が目標達成の相談役に
- ・ 人脈が広がる多様なコミュニティ

* 選ばれる理由の提示 (こゆ財団HPより抜粋)

3、視察報告

(2) 一般財団法人 つの未来まちづくり推進機構

▶視察先の概要

- ・2019年4月、「ふるさと納税」寄附金（10億円を都農町から拠出）を資本金に設立。職員数13人（役場から派遣3人）。
- ・ミッション：「未来を動かす人と事業をつくる」
- ・設立目的は、多世代共生社会の実現、地域・産業振興、教育・人材育成。
- ・デジタル・フレンドリー推進事業（都農町からの委託）では、町内全域に光回線を敷設、全町民にタブレット端末を無償貸与（全世帯の73%が希望）。
- ・宮崎大学（医学部・地域資源創生学部）と寄附講座で連携。

▶ポイント

- ・10年間で10億円の活動資金。民間から優秀な人材を招聘。
- ・町長：「負のスパイラルを断ち切るための事業に集中投資」「時代遅れの我々がハンドルを握り続けてはいけない。未来を創る若い人を育てる」
- ・約10億円で道の駅を開業し、年間約70万人の利用者を獲得。販売の場づくり、地域商社機能の実装として投資。
- ・デジタル講習会は258回（累計1,342名）と丁寧に行っている。
- ・町HPに都市オペレーティングシステム（OS）を導入。データの蓄積・分析や、他の自治体や企業などと連携を図っている。



*丁寧な説明が人気を博している（つの未来財団HP）

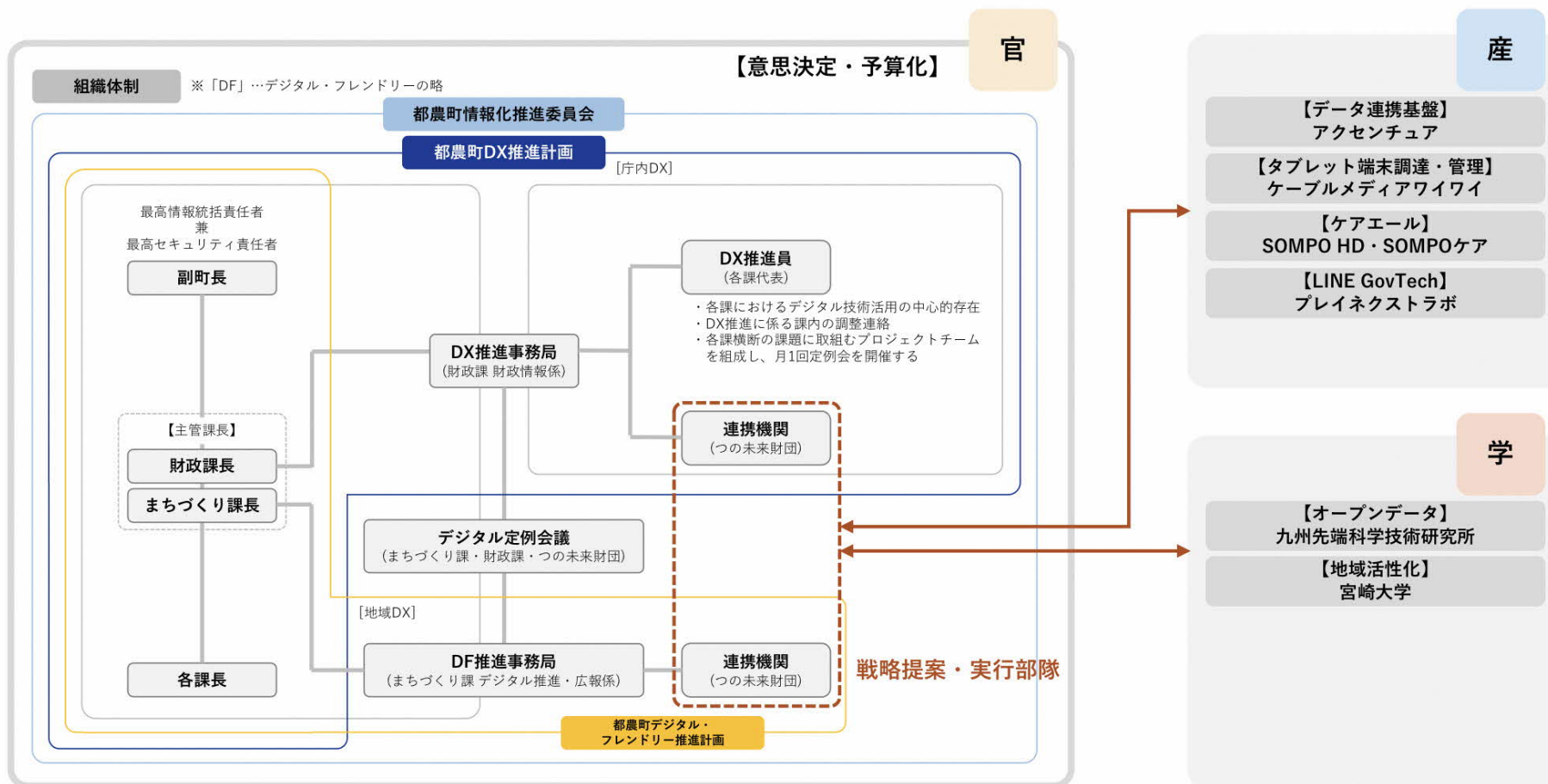


*近隣からも出品者が多数（道の駅つのHP）

3、視察報告

(2) 一般財団法人 つの未来まちづくり推進機構

つの未来財団は、産官学の間をつなぎ、実行する役割を担っています



* 組織体制 (資料提供: つの未来財団)

3、視察先概要

(3) 延岡市駅前複合施設エンクロス

▶視察先の概要

- ・駅前百貨店の閉鎖による関係者などの危機感から始動。
- ・従来の商業形式に頼らない賑わいづくりに視点をおいた。
- ・コンセプト：「1時間早く来て待っていたい」 駅待合スペース。
- ・指定管理者：カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社（CCC）。
- ・365日年中無休。朝8時～夜9時。1階待合室は朝5時～。
- ・市が購入した閲覧図書2万冊と蔦屋書店の販売図書2万冊、合計4万冊。約350席。
- ・H30年の開設来、市民活動件数500件以上。イベント参加者数約7,000人。200以上の市民団体がイベントを開催。
- ・事業総額46億円（エンクロス19億円、連絡通路14億円など）。一般財源は2億円。運営予算は年間1億4千万円（指定管理料1億円、運営費2,500万円など）。指定管理料について賛否あり。

▶ポイント

- ・市民ワークショップ等で市民を巻き込んだプロセスで、公開性や透明性を確保。
- ・建築方との連携で、デザインに一貫性。
- ・キッズスペースやカフェなどで子供や女性も利用しやすい。
- ・施設設計段階から民間事業者が参画。
- ・コミュニティセンターと類似。費用対効果の検証が必要。



* 駅周辺の様子（写真提供：延岡市）

3、視察先概要

(3) 延岡市駅前複合施設エンクロス

待合スペース



キッズスペース



キッチンスペース



市民活動スペース



図書閲覧スペース



カフェスペース



*各スペースの様子（写真提供：延岡市）

3、視察先概要

(3) 延岡市駅前複合施設エンクロス



* イベントの様子 (資料提供: 延岡市)

3、視察先概要

(4) 延岡城・内藤記念博物館

▶視察先の概要

- ・前施設の老朽化により令和4年9月にリニューアルオープン。
- ・担当課11人（学芸員3人）。管理運営・利用促進、学芸業務を担当。指定管理者10人は、施設維持管理、管理運営施設利用、利用促進などを担当。
- ・総事業費約36億（一般財源：2.5億円、国庫補助金：1,500万円、合併特例債：約32億円、基金繰入金：約1.5億円）。
- ・水道光熱費：約2千万円/年、委託料：6.7千万円（うち指定管理料4.4千万円）、展示事業ほか：3.3千万円
- ・令和4年度来館目標人数：3万人、令和5年度は5万人を目標。
- ・平常展示、企画展示、体験展示などで450点。収蔵は約5万点、そのほか民具など民俗資料などは他で保存。
- ・竪穴住居、古民家、集合住宅など体験展示室があり、子ども向けの啓発事業に活用。

▶ポイント

- ・デジタル展示は部分的（屏風の解説のみ）。必要なものに適切なアプリを。
- ・城跡が見える絶好の立地で、歴史的資産を感じる教育施設。
- ・重要展示物も展示可能な調湿調光設備完備。
- ・収蔵庫面積は528㎡と平常展示室の75%、企画展示室の約2倍。
- ・エントランスホール床面に設置された市内全域の空撮写真は、個人宅も識別できる精度。位置確認ができ好評。展示の工夫。



* 博物館の外観及び展示室（資料提供：延岡市）

3、視察先概要

(4) 延岡城・内藤記念博物館



4、考察

(1) 中間支援組織の役割について

町の歳入増（ふるさと納税）、産業創出、人材誘致をはじめとする地域課題に対する取り組みにおける財団の果たす役割が大きいことから、行政でもなく指定管理でもない中間支援組織の有効性が確認できた。浜田市においても、今回視察した二つの財団のような組織を行政主導で設置すること、または、その機能を有する団体等に対する支援は有効であると考ええる。自治体規模が異なるため、手法については議論を要する。

4、考察

(2) 交流拠点の整備について

複合的な機能を有する拠点整備は魅力的ではあるが、民間に委託する場合の指定管理料の費用対効果、今後の施設整備を想定しながら、総合的な視点で判断していく必要がある。浜田市の駅周辺の活性化に向けた関連事業においては、市民ニーズを尊重しながら、必要機能の実装、環境充実に図るべきである。

4、考察

(3) 歴史文化施設の整備について

浜田市においては、60年以上が経過し老朽化が著しい浜田郷土資料館の建て替え事業が検討されているが、歴史資料の収集・保存・活用施設として十分な機能が備わっているかを中長期視点から検討する必要がある。今回視察した施設では、わかりやすい展示機能・歴史的資産を感じる教育的機能を有していることが確認でき、浜田市で検討される同様施設においてもビジョンと設備仕様の整合性については十分考慮されたい。また、維持管理コストの妥当性などはもちろんのこと、集客ビジョンについても十分検討を行う必要がある。

(了)

総務文教委員会